

ユニットプライス型積算方式への転換による効果

従来積算（積み上げ）方式

下請企業と資機材供給者及び労働者との取引を聞き取り等により労務単価、材料単価を調査

発注者が施工のプロセスを想定して作成した積算参考図書を示すため、受注者は創意工夫の意欲が低下

単価合意をしないため、施工量が増減した場合等の契約変更額が不明確
発注者が必要と考える事項について条件明示するため、明示のない条件が変わった場合に変更協議が難航

直接工事費と間接工事費が別々となっているため、工事目的物と価格との関係が不明確

積算業務や労務単価の調査に努力・時間がかかる

ユニットプライス型積算方式

価格の透明性、説明性の向上

発注者と受注者（元請企業）の取引価格をベースに、発注者が直接、施工単価（ユニットプライス）を調査

民間活力（創意工夫）の導入促進

発注者は、完成形のみを規定し、想定した工法を示さないため、受注者（元請企業）は創意工夫の意欲が向上

契約上の協議が円滑化

総価契約単価合意をするため、施工量が増減した場合に、自ずと契約変更額が決定
あらかじめユニットの価格に含まれる内容や適用の条件を明示しているため、条件が変わった場合に変更協議が円滑

工事目的物と価格の明確化

工種毎に直接工事費と間接工事費が一緒になっているため、工事目的物と価格との関係が明確

積算業務の省力化

積算業務の努力軽減、労務単価の調査が不要になる

つまり、ユニットプライス型積算方式を導入すると

積算段階

発注者は効率
業務効率
率が上がります

施工段階

受注者は
やりがい、
努力が利益に
変わります

供用段階

国民は満足
良いものが
適正な価格で
実現できます